IC たより

（社）国際 IC 日本協会機関紙

Building trust across the world's divides

Initiatives of Change Japan

発行年月日　2010 年 4 月 12 日
発行所　（社）国際 IC 日本協会
〒 156-0055　東京都世田谷区船橋 1-54-14
TEL：03-5429-1156　FAX：03-5429-1157
E-Mail：info@jp.iofc.org
HP：www.jp.iofc.org

頒価　1 部 100 円

4

◇目次◇

心を育てるネットワーク第 16 回セミナー
総会＆懇親会
韓国 IC 国際キャンプ
インド CIB 会議
インド IC センターでのボランティア
他

心を育てるネットワーク（ミニ HOHO in 唐津）

2010 年 3 月 6-7 日　於　唐津シーサイドホテル

眼前に広がる海を眺めながら、心を育てるネットワーク第 16 回セミナーが幕を開けた。九州地区では第 5 回目、42 名参加の会場は熱気に包まれた。矢野国際 IC 日本協会会長の基調講演に始まり、今野由梨㈱ダイヤルサービス設立者の講演、さらにストーリーテリングを体験した。

2 日目、国際 IC 日本協会の活動についての話の後、チェ・ヒジン（韓国）による「静かな時間」の過ごし方についての話があり、4 つの道義標準「正直、純潔、無私、愛」についての説明が、ヒジンさんの体験を通して話され、また、道義標準をどのように身につけたかについて、数人の方からお話があった。

矢野会長の講演は、2 日間に亘って 2 回あり、仕事での体験のみならず、ご自分の生活やご家族の事などが多岐に渡り、中でも「論語」を何百回も読破したという話には、矢野氏の固い信念の程が伺われた。また同行された奥様との仲睦まじい様子に女性群から感嘆の声が上がった。

▲講演された今野由梨氏

今野由梨氏からは、彼女の数奇な運命と力強い信念から生まれたお話が次々と披露され、74 歳というお歳を感じさせないバイタリティーで参加者を魅了した。今野氏は三重県桑名市で 9 歳の時に空襲に会い、街は全滅し九死に一生を得た。その時、戦争のない平和な世界を作るために、自分の一生を捧げると神に誓った。女性の社会進出はまだ困難だった時代に、いち早く自ら起業し、ダイヤルサービス㈱を設立、常に困難と闘いながら前進し、世の中のニーズを掘り起こし、女性の力を結集して立ち向かう姿に感銘を受けた。

ニューヨークの万国博覧会での運命的な出会いでは、取材に訪れた車椅子のアメリカ人記者に、「貴女は日本のどこから来ましたか？」と聞かれ、「桑名」と答えた瞬間にその記者が「私は戦争の時、桑名に爆弾を投下した兵士です」と応えたくだりには、皆手に汗を握るような驚きが会場に走った。その方は、命令とは言え爆弾投下後、民間人の逃げまどう姿と全滅した街の姿を見たことで、精神に異常をきたし下半身麻痺となってしまったという。その後この方と今野氏との交友は続いた。彼女はあらゆる場面で運命的な出会いがあり、それによって助けられてきたと語る。現在今野氏は、その経営手腕が認められ、数々の公職にも就いている。9 歳の少女の戦争体験が彼女の人生の柱となって、エネルギーを掻き立てる源となっている事を知り、深い感銘を受けた。

～次回の心を育てるネットワーク（第 17 回日本ミニ HOHO）セミナーのお知らせ～
2010 年 10 月 23 日（土）～ 24 日（日）於：天城ホームステッド
今回のテーマは企業人、社会人各々の立場で企業の社会的責任について考えます。

総会＆懇親会

IC 総会＆フルートコンサート
2010 年 3 月 13 日（土）於 IC ハウス

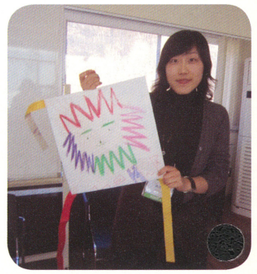
2009 年度の事業報告がスクリーン映写を用いて分かりやすく示された。また決算報告では 2009 年度、MRA 財団の助成金や CRT 日本委員会の入会等で黒字決算となり、また活動においても、海外チームの助けを得て、学校訪問、国際会議等活発に行われ、ミニ HOHO、インド CIB 会議、隔月の交流会も活発になってきている。総会後、須藤英二氏のフルートコンサートが行われ、心を和ませた後、手作りケーキとお茶の接待があり、家庭的な雰囲気の中、おしゃべりが弾んだ。

韓国 IC 国際キャンプ参加

（2010 年 1 月 28 日から 2 月 5 日までの 7 日間韓国で開催）

チェ・ヒジン（韓国 IC）

▲韓国 IC キャンプに参加した韓国・台湾・中国の青年たち



今年で 7 回目を迎えた韓国 IC 国際キャンプに参加しようと思ったのは、とても充実したプログラムで新しい自分に出会えるということを聞いたからだった。さらに今年は韓国だけではなく台湾、中国、日本の若者にも声をかけ、もっと広い観点で考えられる有意義な時間になることができた。

今年のテーマは " 出会い (Encounter)" だった。毎朝静かな時間を通じて本当の自分に出会い、そして寸劇を披露するアクティビティの時間等では自分と他人、家族、世界との関係をもう一度考えられる良い機会だった。当たり前のように考えた私と回りの人々そして物事との関係が今の私を支えて、今の私を動かしてくれたことに気がついた。そしてそこには私の気になるすべての答えがあった。" 自分との出会い " ということがこのように私を励ましてくれるとは思わなかった。もちろんこのキャンプに一緒に参加した人たち (韓国人 30 名、台湾人 10 名、中国人 1 名) との新しい関係作りもその一歩であった。文化や国の違いはあるけれど、自分との出会いを受け止めようとすることとそれを大切にしようとする思いは同じだった。

▲ハンギョレ中高学校の生徒たちと

特にキャンプが開催された場所は北朝鮮から逃げて来た人々が教育を受けている「ハンギョレ中高学校」というところで韓国でも脱北者のための唯一の特別な学校であった。学生たちにプログラムに参加してもらい泊まる部屋が一緒だったため色々な話し合いができた。夕食の後は短い休憩時間でも一緒にスポーツが出来たのですぐ仲良くなれた。その中静かな時間を通じて彼らが話してくれたことは忘れられない。北朝鮮の国境を越えて来た韓国までの旅の大変さとその苦しい経験で今も傷ついていることを聞いて、ニュースで流されている北朝鮮の良くないイメージで彼らを見てきた自分の心がとても恥ずかしく感じた。そしてあらゆる辛酸をなめて着いた韓国という国をまだ自分たちの国とは言えない彼らのために私は何ができるかを考えてみた。それはまず彼らのことに関心を持つこと。彼らが社会人になって韓国の社会に足を踏み切る時感じる目に見えない差別と文化の違和感を乗り越えるために役に立ちたいと思った。これが同じ民族として北朝鮮のことを誤解してきた私の世代がやらなければならないことだと感じた。

▲糸（ひも）を用いて、思い出深い語らいとなった

▲キャンプ最終日みんなでつくった語らいの円座

キャンプの最後の夜には参加者みんなが円く座って参加の感想を語り合った。語らいの際、糸を持った人は自分の話しが終わると次の人に糸を投げる、投げられた人は自分の腕に一回糸を巻いて語る、終わったらまた次の人に投げる。このようにして出来た糸で作られた道は私たちが忘れていたことを教えてくれた。

インド CIB に参加して

佐野廣二
（横河電機㈱企業倫理・CSR 部長）

▲インド IC センター内の清潔な室内の様子

昨年、インドの IC センターで行われた CIB 会議「信頼と誠実さを共通のビジネス慣行として取り入れるには」の初日、TATA Sons 社イラーニ取締役の基調講演は、大変印象深かった。「自分のために儲けることと、他者を豊かにすることは異なり、皆で富を築き、その富は分かち合うこと」等、会社にとって信頼と誠実が重要な行動規範であるなど実話をもとに講話。特に政治側の意識と民の意識の調和で目標が達成される、そのために「誠実と信頼への高い意識を持つことが重要」と訴えていた姿は思い出深い。

翌日からセッションごとにパネラーによる発表が行われ、各テーマに対する質疑応答や意見交換が活発に行われた。4 日目に「持続可能な地球環境と豊かな社会を実現するために」と題して登壇発表を行ったが、この会議を通し、各社の行動規範に基づく信頼・誠実の醸成の必要性、コンプライアンス遵守、ガバナンスの強化、さらに環境保全の重要性を痛感した。

初参加ではあったが、朝 7 時のモーニング・ティーに始まり夜 9 時半まで異宗教と共に祈る会、ヨガ等イベントや会議が組まれ、13 カ国からの参加者と共に静粛で清々しい澄んだ空気の漂う場所でオープンで心温まる会話ができ、僅かな期間ではあったが、心が癒される思いと共に大きなパワーを頂戴することができた。

41 年前、カシの大木 1 本だけの荒地から、緑豊かな木々に囲まれた桃源郷の趣を漂わせる現在の姿へと変貌させた IC センターのスタッフの計り知れない労力に感謝したい。この地での経験を生かし、日本国内での IC 活動を通し IC そのものの知名度向上やパートナーシップ醸成の場としての機会拡大（ビジネスとの調和）を図れるように一翼を担って行く。

インド IC センターでのボランティア

日本の青年たちが今年の 2 月 ~3 月にかけてインド IC センターでのボランティア体験を行いました。その体験通して率直な滞在レポートを寄せてくれました。

Quiet time（静かな時間）

藤田　亮（立教大学社会学部 3 年）

▲テーブルランドから見た夕焼けの様子

現地時間午前 7 時。22 時間あまりかけて、ようやく辿り着いた。玄関から、そのまま部屋まで案内される。「8 時から朝食で、その後すぐにミーティングがある」。言われるままに朝食へ。そして朝のミーティングへ。いつの間にか夕食が終わり、「明日は 7 時から quiet time（静かな時間）があるから」と伝えられる。何がなんだか分からないまま一日が終わり、気が付くと目覚ましが鳴っていた。6 時。前日の疲れも取れないまま支度をし、prayer room(礼拝所) へ。…

驚いた。朝日が燦々と差し込むその円形の部屋では、誰もが目をつむり、何かを感じ取ろうと集中している。小鳥のさえずりだけが部屋中に響いていた。各々が感じたことを感じたままに述べ、気づいたら 8 時。朝食の時間になっていた。この日以降 quiet time というものが、自分にとって一番印象深いものになった。

▲インド・パンチガーニの高台に臨んで（右が藤田君）

ある人は、偉人の言葉を引用し、それに対する自分の考えを述べる。ある人は、自分の母親に対して、感謝の意を述べる。ある人は、自国の現状に対して、自身がどうすべきか語る。とにかく自分の心の声を聴く。それに対して、自分がどう思ったか、みんなとシェアをする。みんなとシェアをすることによって、自分だけの意見ではなく、みんなの意見になる。そうすると、一体感が生まれ、自分が何かの一部である、と実感することができる。何かに所属することによって得られる安心感、幸福感。僕自身、この quiet time の間に、えもいわれぬ安心感、幸福感を得ることができた。IC の理念の一つ「民族、宗教、国籍を超えて」というのが、まさに、この quiet time の中で起きていた。

▲〝アジア・プラトー〟前で
IC センターの皆と

prayer room には、あらゆる民族、宗教、国籍のスタッフがいる。自分の心の声を、「民族、宗教、国籍を超えて」共有することにより、みんなとの一体感を得ることができる。これが世界規模で成されたら、世界は少しずつ良い方向に変化するだろうと感じざるを得なかった。

▲バンガロールのホストファミリー
（エイブラハム夫妻）の奥さんの実家で

お知らせ：スイス・コー国際会議
7 月 2 日～8 月 17 日開催

毎年 7 月初旬から 8 月中旬までスイスの町コーに在る IC 国際会議場マウンテンハウスで開催されます。コーはジュネーブから程近い、レマン湖を眼下に見下ろす標高千メートルの所に位置しています。この会議には、世界中から人種・宗教・年齢・職業などの違いを超えてより良い世界を築こうと考える人々が集います。この機会に、人生の新たな出合い・触れ合い・学び合いを体験してみてください。ツアー参加は締切りましたが、個人参加希望の方は、事務局までお問合せ下さい。

第 33 回 IC 国際会議
2010 年 5 月 15 日（土）～16 日（日）in マホロバ・マインズ三浦
“世界に目を向けよう！一人ひとりのチェンジ＆アクション”

リーダーシップのトレーニングを受けた韓国・カンボジア・ケニア・中国・ベトナムからの 5 名の青年たちと体験を語り合おう！分かち合おう！

▲ 2010 年来日予定の国際ボランティアの青年達　左からマーシー・ワブケ（ケニア）ブンケン・スレン（カンボジア）ユエ・チャン（中国）チェ・ヒジン（韓国）ナン・プツー（ベトナム）敬称略

ラジモハン・ガンジー　来日記念講演

日　時：　2010 年 5 月 12 日（水）14：00 ～ 16：30（開場：13：20）
会　場：　憲政記念館　講堂　（東京都千代田区永田町 1-1-1）
入場無料　（定員 450 名　先着申込順）

“今、日本人に求められる　世界での役割とは”－創造力と勇気を持って前進しよう－

ラジモハン・ガンジー氏は、非暴力によりインド独立を勝ち取ったマハトマ・ガンジーの孫として、その精神を受け継ぎ、“変えたいと思う世界への変革の源”になることを訴えています。
青年時代に来日し、戦後の日本の復興を目の当たりにしたことに始まり、桜美林大学で客員教授として教鞭を執るなど日本との親交が深く、また、長年インドとパキスタン、ヒンズー教徒とイスラム教徒間の和解に努めてきた経験を持ちます。その後アメリカに渡り、イリノイ大学で教鞭を執り、特に 2001 年 9 月 11 日の同時多発テロ以来、西洋とイスラム世界の溝を埋めるために、力を尽くしています。このような多彩な経験と、広い視野の下、日本人の果たすべき世界での役割について提言します。

お礼　5 月のガンジー氏来日記念講演は、社団法人東京倶楽部の全面的なサポートを受けて開催致します。素晴らしい講演会が実現できることに改めて深く感謝の意を表します。

〈入会のご案内〉

IC(Initiatives of Change…前身は MRA（Moral Re-Armament）。1938 年にロンドンで発足して以来、〈対立する相手や国を変えたいと思うなら、まず自分や自国から変わるべきである〉という理念に基づき、あらゆる民族、宗教、文化の根底に流れる共通の倫理観（モラル）を普遍的な〈正直・純潔・無私・愛〉という 4 つの絶対標準としてまとめ、それをもとに世界各国で紛争等の問題解決に不可欠な相互の信頼関係を醸成する活動を進めてきました。国連の認定を受けた国際 NGO として、世界 50 カ国以上で活動しています。

○正会員（議決権を行使できます）
個人会員　年額　6,000 円
法人会員　年額 50,000 円
○賛助会員
個人会員　年額　3,000 円以上
法人会員　年額　50,000 円（一口）以上

▲ IC ハウス（東京都世田谷区）

会費・寄付金の振込先
1. ゆうちょ銀行
郵便振替口座番号　00180-0-38289
口座名　社団法人 国際 IC 日本協会
2. みずほ銀行渋谷中央支店 普通預金
口座番号　162-4945790
口座名　社団法人国際 IC 日本協会

@編集後記　ガンジー夫妻来日や国際会議、海外ボランティアチームの来日に向けての準備に忙しい毎日の中での、たより発行でした。皆さんのご参加を期待しています。
広報委員：海老原真美、岡本さくら、高橋久子、チェ・ヒジン、長野清志、弓場睦